

イタリアの原子炉

1950、60年代～

実験用原始炉 3基 (<250MW)
- 1990年までに全て閉鎖

商業用原子炉1基
(カオルソ, 860 MW)
- 稼働 1978 ～ 1987年

研究用原子炉
イタリア陸軍 (ピサ) 1基
研究用原子炉 (閉鎖済み)
4-5基







イタリアにおける原発反対運動

- 1970年代～: 学生、左派政党、環境保護運動の活動家
- 公害 (大気、河川、海洋汚染)
- 地震のリスク
- コスト
- **1987年11月 国民投票:**
 - 原発建設を受け入れる自治体への交付金の廃止
 - 受け入れ自治体が反対した場合、国による決定権の廃止
 - 国営電力会社ENELによる国外の原発事業への参入の禁止
- 1986年4月 チェルノブイリ原発事故

国民投票: 投票者の80%が原発停止と脱原発に賛成

2000年代：原子力の新たな目覚め

- (ベルルスコーニ(当時の伊首相)の巨大妄想的傾向
- 変わらぬ問題点、変わらぬ反対
- 20年の空白(関心の不在)→
- 知識と専門性の低下がもたらす新たな問題

2011年 新しい国民投票

● 3つの争点:

原発、水道サービスの民営化、法の前での平等

● 2011年3月,福島原発の事故

98%が完全な脱原発に賛成





現状

- 廃炉
- 使用済み燃料の再処理
- 輸送
- 核廃棄物の保管

コスト

- ウラン (殊に良質のウランは有限)
- 原子力発電所
 - 建設 (10-20年)
 - 稼働 (40 年以下)
 - 廃炉 (?? 年)
- 事故 (コストは予想不可)
- 保険 (高コスト, 評価をめぐる論争, 計算)

注:

- 米国 (エネルギー事業は民営): 1979以降新設原発ゼロ
- フランス (国営電力会社): 継続的に新しい原発の建設

原発のその他の課題



周辺地域の軍事化

原発のその他の課題

- 周辺地域の軍事化
- 中央集権型発電 (vs. 分散型発電)
- 経済的な独占
- 兵器製造 (プルトニウム)
- テロ ; 「汚い爆弾 dirty bomb」、
攻撃の標的になる可能性)
- 犯罪組織の潜入 (建設、廃棄物保管)

原発のない世界は現実的に可能だ

- 再生可能エネルギーへのシフト
- より広い分野における成長志向からの脱却
- 公正な分配に基づく新しい社会

Florence 10 + 10 meeting

ヨーロッパ反核・脱原発ネットワーク

謝辞

レーガンビエンテ・イタリア

- Maria Maranò

反戦科学者委員会

- Angelo Baracca
- Alberto Zucchetti
- Mauro Cristaldi
- Edoardo Magnone

脱原発世界会議2

**そして、ご清聴下さった皆様、
どうもありがとうございました。**